



TITLE:

通信

AUTHOR(S):

神屋, 信一

---

CITATION:

神屋, 信一. 通信. 天界 1936, 16(183): 374-374

ISSUE DATE:

1936-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167254>

RIGHT:

に和氣霽々たる光景で食事をすませて居ります。食事も住民も想像より遙かによく、別に京都に居る時と大して變化ありません。若し餘暇が出来れば、枝幸、遠輕の隊を訪問して見たいと思つて居ます。問題は6月19日にあり、その頃には内地の方も總動員、共に黒い太陽の顔をノガサズ捕へたいものです。(木邊)

## 第 2 信

チエツコ班が來て、中頃ははいよいよ面白い所になりました。頼りない英語でやつて居ますがどうですかね。あと7日許り、臍を落ち付けて今日の歡迎會に出る筈。6月12日 (木邊)

---

通	信
---	---

---

## 前 略

今度都合ではブラジル海岸山脈の1800米ばかりの高山に觀測所を設けることになつて居り、内定いたして居ります。黃道光の觀測には好都合だと存じて居ます。年内には開始するつもりで當分私が引越して擔當します。地名はカンボス・ド・デヨルドンといはれてゐまして療養所等の多い至極健康地であります。過日外務省派遣の新垣恆政といふ醫學博士が私の中學時代の同級の親友で種々と骨を折つて呉れました。新垣君とはサンパウロ州立天文臺(未完成)も訪問しました。サンパウロの州立天文臺の寫眞少々不出來ですがお送りします。氣象臺もかねてをります。設備は相當大がかりでやつてゐますが、いつまでたつても出來上らない所がブラジル式です。

4月3日 ブラジルにて 神屋信一

---